





# 男性の主体的な関わりが重要

UN Women 国連女性機関  
日本事務所所長 福岡 史子さん



## インタビュー ジェンダー格差の解消へ

福岡さんが国際協力の分野で活躍するようになった原動力は何か。

「私は名古屋市の郊外の田舎で育ちました。田んぼが広がるような自然豊かな地域です。祖父の代は、稲作を営む農家でした。地方で生まれ育ったからでしょうか。『外の世界への憧れ』があったんです。学校で地理や歴史を学んだ時、世界を、実際にこの目で見てみたいと思いました。『英語を話せるようになれば、世界中の人と話ができる』と習字、語学学習にも力を入れました。そうした

中、いつしか国際的なキャリアを目指すようになったのです。思えば私が育った時代は、4年制大学に進む女性は少なくて、女性は短大に行くか、高卒で就職する方が仕事に就きやすかったです。それでも母は、私が大学に進学することを強く勧めました。さらに、『自立して、男女が平等に扱われる職業に就きなさい』と背中を押してくれたんです。こうして、私が最初に進んだキャリアは英語教師でした。

その後、世界各地で環境保護や人道支援に携わってこられました。これまでの経験で、女性のエンパワメントが市民社会に浸透もたらしたエピソードはありますか。



UN Womenは様々なイベントを通して啓蒙活動を実施し、UN Women/Catlyn Quinn

国際環境NGOに勤めていた頃の印象的なプロジェクトの一つに、フィリピンなどで実施した「ヘルシー・」

世界と比べて見た時、日本のジェンダー格差が大きいことが指摘されています。

2023年、約20年ぶりに日本に戻ってきました。生活してみて、良い意味で日本は変わって、と驚きました。女性の社会進出が大きく進んでいるように感じています。ですが、24年に世界経済フォーラムが発表した、世界各

国は、自然が美しく豊かな地域に、観光事業計画が提案され、環境保全がいらしてきていた。これまでにコミュニティが大切に生きてきた自然が荒廃すれば、現在の生活だけでなく、将来の収入源も脅かされます。地域の女性たち、特にお母さんたちは、子どもの成長、家族の健康に強い関心があります。自然資源管理の方向性を決める際に女性が参加し、女性の声を積極的に取り入れるよう、現地政府と協力してワークショップを開催しました。

例えは、「沿海の魚を取りすぎず、将来にわたって漁業で収入が得られるようにする」といった女性たちの提案を、実際に地域の資源管理計画に反映しました。その結果、エコツーリズム、自然環境の保全につながる観光、新たな新しい収入源も加わって、コミュニティ全体の持続可能性が向上しました。もう一つ忘れられないのは、南米エクアドル北部のエスワルダスでのプロジェクトです。これはタグアヤシの種をポタンに加工することで、養蚕、収入源、貯蓄と似ている。この種は象牙に似た色と質感で知られ、かつてはポタンの原料として使われていました。エカアドルといえば、バナナが有名ですよね。一方で、バナナ農園の拡大が原生林の過度の伐採を招いていました。当時の村では土地をバナナ会社は買って、その農園で村



UNDPで働いていた頃の福岡さん(左端)。セーパールの山間部コミュニティを訪問 ©UNDP

民たちが働く計画が持ちかけられていました。ここで立ち上がったのが、女性たちでした。村民の手でタグアヤシの種を集めて、染や彫刻などを施していく。女性もトレーニングを受けて会計や工程管理に携わりました。そして最終的に、村の豊かな森を守りながら新たな生活文化をつくることができました。タグアヤシのポタンは、皆さんも知っているブランドや高級スーツなどに、再び使用されるようになったんですよ。このように、女性が参画することで成功を取った事例は数えきれません。これまで、男性だけで意思決定されがちだったところに、女性が加わり、「男性と女性が共に協力しながら進めたい」からこそ、コミュニティ全体の持続可能な発展が実現し、この点が大事だと思います。

ふくおか・ふみこ 名古屋出身。中学校の英語教師、JICAの研修コーディネーターを経て、米国のジョンス・ホプキンス大学高等国際問題研究大学院(SAIS)で修士号を取得。国際環境NGO「コンサベーション・インターナショナル」の日本代表、UNDP(国連開発計画)シリア事務所の副常駐代表などを歴任後、2024年11月までUN Women日本事務所の所長を務めた。現在はUNDPのニューヨーク本部で、アラブ局本部広報&パートナーシップ・チームリーダー。



ご感想をお寄せください  
sdgs@seikyo-np.jp



右=聖教電子版の「SDGs」特集ページが閲覧できます。左=海外識者の記事の英語版を読むことができます。

# 地球が輝き続ける、まちづくりを。

私たちは「最良の作品を世に遺し、社会に貢献する」という経営理念のもと、手掛ける建築・インフラのひとつひとつを丹精込めてつくってきました。これからも豊かで安心・安全な「まちづくり」を通して、サステナブル社会を実現し、地球の未来につないでいきます。



株式会社 竹中工務店 https://www.takenaka.co.jp/ 本社：〒541-0053 大阪市中央区本町 4-1-13 Tel.06-6252-1201 東京本店：〒136-0075 東京都江東区新砂 1-1-1 Tel.03-6810-5000





世界語で行われている、絵の描き方を指導したワークショップの一場面。写真左から時計回りに「アングラナ、ウクラナ、ミャンマー」(CUN Women)



# 誰にも自由な「人生の選択肢」を

4面から続く

また日本は、政治家や管理職になる女性が少ないことが目立ちます。それは能力の問題では決してありません。女性からは「家庭生活との両立が難しい」との声をたくさん聞きます。昇進の機会があっても、育児や家事とのバランスがとれない女性が多いのです。——固定観念や慣習を変えていくのは、簡単ではありません。そうすね、良い制度や法律ができて、すぐに社会全体が変るとは限りません。

例えは、「国連が採択した『女子別撤廃条約』」を、1980年代にも日本も批准した。これを契機に、男女雇用機会均等法が成立しました。ほぼ10年前の話ですが、今もたくさん課題があります。SDGsの目標5「ジェンダー平等を実現しよう」に關しては、理解が多いように感じます。特に「女性のエンパワメント」の話をすると、「女性ばかり褒める話ではないか」「男性はどうなるのか」といった意見が寄せられることがあります。

しかし、私たちが目指しているのは、長年存在してきた男女間の社会的・文化的なギャップを「解消」することです。決して女性を優遇することではありません。ジェンダーギャップは、女性だけの問題ではなく、社会全体の課題なのです。男性も、いかにこの課題を主体的に向き合いか非非の重要で、女性だけの責任を負うべきではありません。男性もつと自由に取得できるようにする必要があります。育児制度は整ってきませんが、現実には「取りにくい環境」がある。これは「女性ばかり褒める話ではないか」「男性はどうなるのか」といった意見が寄せられることがあります。

「自分ごと」として

——ジェンダー平等の推進のために、UN Womenはどのような取り組みに力を入れていますか。

「これはとても素晴らしいこと。女性の社会進出を考えると、女性の働き方も変える。女性が社会で活躍するのと同じように、男性が家庭でも活躍し、子どもと過ごす時間を増やせるようにする。そうしなければ、女性の社会進出に取り組んでも、ますます女性の負担が増えるだけです。」



北京で開催された世界女性会議から30年となる今年、2024年9月の国連会議の関連行事として開かれた「ユニバーシティ」の国連本部で、UN Women Asia Pacific Chairperson

「福岡さんにとって平等な社会とは、どのようなものでしょうか。

平等とは、「同じ選択権があること。そして『選べる自由がある』ということではないでしょうか。例えば、ある

また、「アンステレオタイププライアンス」(有害な固定観念を撤廃する連帯)という取り組みもあります。これは、メディアや広告における有害なステレオタイプをなくして、世界的な活動で、20年には日本支部が発足し、複数の企業がステレオタイプをなくして社会的責任として取り組みを加速させています。

近年、従来の「女性らしさ、男性らしさ」に違和感を持つ人が増えてきていますよね。例えば、「洗濯」など家事の広告には、女性が出てくるべきか...という一種のステレオタイプです。

ジェンダーに限らず、障がいのある方への偏見など、あらゆる差別をなくしていく。そうすることで、「Diversity」(多様性)、「Egalite」(公平性)、「Inclusion」(包摂性)の意識をもっと高めたいですね。

最後に、読者のメッセージをお願いします。

25年は、1995年に北京で開催された「第4回世界女性会議」から30年という大きな節目の年です。この会議で

家庭で、男の子と女の子がいたら、「あなたは女の子だから大学に行かない」「長男だから特別扱い」といった偏った考えをなくし、全ての人に公平な扱われる機会を与えることが、平等の本質だと思います。

世界ではまだまだ、割り当てられた性別によって、劣る人生が全く異なるという実情があります。一人一人が「自分ごと」として「社会を平等にしたい」と心から思わない限り、本当の意味での平等は実現しません。

は、世界189カ国が女性の生活を向上させるための国際的な政策の枠組みに合意しました。そして、25年の「第9回国連女性の地位委員会(CSDW9)」では、このための取り組みの進捗状況について、世界規模の検証が行われます。UN Womenは、これに向けたイベントの開催や、パートナーシップの構築など、幅広い活動に力を注いでいます。

ジェンダー平等は、SDGsの全ての目標に補助的に関わっています。喫緊の課題として、今一度、皆さんに深く考えていただきたいテーマです。

特に若者の皆さんの役割は極めて重要です。次世代を担う皆さんの声が、社会を大きく変えるもととなります。ぜひ発信してください。

# 抗ウイルス・抗菌加工サービス

無色透明なため、風合いを変えず、あらゆるモノ・素材に、施工が可能です

**SIAA** 抗ウイルス 抗菌加工  
Anti-virus + Anti-bacterial

ISO 21702  
**SIAA** 抗ウイルス加工  
Anti Virus

日本図書輸送株式会社 SEIKADOU SRW-30

長期的な衛生対策をご提案いたします

- 屋内の机・イス・ドア・手すりや、自動車・バスなどの車内に施工可能
- 無光触媒で、24時間・365日働き続ける効果
- 3~5年の効果が継続する持続型の衛生対策
- 触っても、口に入れても安全 ※急性経口毒性試験により安全性を確認

